

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)日高市下高萩新田倉庫計画	階数	地上3F
建設地	埼玉県日高市大字下高萩新田字台	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	30人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,976時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年10月10日
敷地面積	9,025 m <sup>2</sup>	作成者	住協建設株式会社一級建築士事務所
建築面積	4,953 m <sup>2</sup>	確認日	2024年10月10日
延床面積	14,243 m <sup>2</sup>	確認者	住協建設株式会社一級建築士事務所



シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.6

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	埼玉県日高市に建つ3階建て鉄骨造の倉庫である。敷地周辺にできる限り緑化を行い、沿道景観や敷地内の暑熱環境に配慮した計画とした。	その他 特になし。
<b>Q1 室内環境</b>	評価対象外	<b>Q2 サービス性能</b> 耐用年数の長い材料を使用するとともに、壁長さ比率や階高を確保し耐用性・更新性に配慮した。
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		特になし。
<b>LR1 エネルギー</b>	BPI: 0.49 BEI: 0.34 LED照明などの高効率設備を採用し、建物のエネルギー量を低減した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 水資源保護のため省水型機器を採用している。
		<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率: 71% 大気汚染防止のために燃焼機器を採用しない計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)日高市下高萩新田倉庫計画新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体		
<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>2.6</b>	
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-			
1.2 遮音		-	-	-	-			
1 開口部遮音性能		-	-	-	-			
2 界壁遮音性能		-	-	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			
1.3 吸音		-	-	-	-			
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御		-	-	-	-			
1 室温		-	-	-	-			
2 外皮性能		-	-	-	-			
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		-	-	-	-			
2.3 空調方式		-	-	-	-			
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用		-	-	-	-			
1 昼光率		-	-	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備		-	-	-	-			
3.2 グレア対策		-	-	-	-			
1 昼光制御		-	-	-	-			
3.3 照度		-	-	-	-			
3.4 照明制御		-	-	-	-			
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策		-	-	-	-			
1 化学汚染物質		-	-	-	-			
4.2 換気		-	-	-	-			
1 換気量		-	-	-	-			
2 自然換気性能		-	-	-	-			
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>			0.43				<b>3.4</b>	
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-			
1 広さ・収納性		-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-			
3 バリアフリー計画		-	-	-	-			
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-			
1 広さ感・景観		-	-	-	-			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画		-	-	-	-			
1.3 維持管理		-	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.2</b>	0.50	-	-		<b>3.2</b>	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.80	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁: ALC	3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床: モルタル仕上・ビニル床、壁: ビニルクロス、天井: ボード類	5.0	0.20	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		5.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	3.0	0.10	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		5.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-			
1 空調・換気設備		<b>2.6</b>	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-			
3 電気設備		2.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-			
		2.0	0.20	-	-			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.50	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高:3.9m以上		5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1		5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.57	-	-	<b>2.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	BPI=0.58		<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = 0.40		<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水	省水型機器、自動水栓を採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.6</b>	0.60	-	-	<b>2.6</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+LGS+仕上		4.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	ライフサイクルCO2排出率:71%		<b>4.1</b>	0.33	-	-	<b>4.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
2.1 大気汚染防止	燃焼機器の使用無し		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐車場の確保、導入路の配慮		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

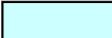
建物名称	(仮称)日高市下高萩新田倉庫計	BEE	1.2	BEEランク	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.1	+	2.6	=	6.7	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
					

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	4.1
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.1
ライフサイクルCO2排出率: 71%			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
敷地内にはできる限り緑化を行った。			

 : 入力欄